

勇気と挑戦精神（その1）

新たな職務や使命にやりがいを感じ、
未知の経験から自分自身を成長させることができる人

今回と次回は、求める人材像の2つ目の柱について解説します。「勇気と挑戦精神」。この言葉に違和感を感じた人はいないでしょうか？よく言われる「公務員＝安定」のイメージと程遠い言葉。しかし、市役所には、勇気と挑戦精神が必要とされる仕事が現実に存在します。見方によっては全ての仕事がそう言えるかもしれません。

大きな事例としては「海外水ビジネス事業」があります。水ビジネスは、世界的な水資源不足を背景に、2025年には世界で87兆円規模に成長すると言われていますが、北九州市は全国に先駆け「北九州市海外水ビジネス推進協議会」を設立。上下水道施設の管理運営ノウハウを持つ市役所と、優れた製品・技術力を有する民間企業が共同して、アジア諸国に積極的なセールスプロモーションを行っています。ゼロからの立ち上げ、諸外国との対外折衝など苦労や困難は数知れません。しかし、地元経済の活性化や産業振興への期待が高まる中、市役所職員は日夜、未知の仕事に取り組んでいます。



同様に、地元企業の新たなビジネスチャンス創出に向け、北九州市役所では中国（大連市等）、韓国（釜山市等）、ベトナム（ハイフォン市等）と経済交流を行っており、最近ではロシア（チェリャビンスク市等）に活路を求めた職員もいます。ほかにも企業や観光客、映画撮影等を誘致する部門があり、いずれも「待ち」の姿勢ではなく、未知の世界に飛び込んでいくアグレッシブさが求められます。

もちろん、市役所の仕事は派手な仕事ばかりではありません。前回紹介した区役所の仕事や納税の仕事は、地方自治体の基本とも言える仕事ですし、水ビジネスにしても、市民に安全な水を供給するため、日々の正確確実な施設管理、地道な改善の積み重ねが、他国にセールスできるだけの技術力を育んだのです。ただ、みなさんに理解していただきたいのは、市役所では「人事異動」により、誰もが未知の仕事に直面するということです。

特に、「一般事務員」で採用された人は、概ね3年に1度のペースで人事異動を重ねていきます。例えば保健福祉局から港湾空港局というように異なる行政分野（業種）に移るのですが、同時に、福祉施設の指導監督からアジア航路の開拓というように、仕事の内容（職種）もガラリと変わることがあります。民間の「一般事務」とは異なり、北九州市役所の「一般事務員」は、定型事務系、対人折衝系、企画系、営業系、プロジェクト系など、あらゆる種類の仕事に従事する可能性があります。



この人事異動は、①「全体の奉仕者」の視点を養う、②ゼネラリストに必要な力を身につける、③職員の適性を発掘し強化するといった目的があります。もちろんランダムに配属するという訳ではなく、何度かの異動を経てその人の強みが見えてくれば、その適性の発揮を主眼とした配属になっていきます。北九州市役所では、採用前から無理にキャリアプランを固める必要はありません。現実の仕事から自己の潜在能力を発掘し、その上で自分の力を生かせるキャリアを歩めるチャンスがあります。そしてそれは皆さんの挑戦精神にかかっています。仕事内容の変化や人間関係の再構築という「不安」、新たな成長という「期待」。両方の気持ちが入り混じりながらも、異動という転機を前向きに受け止め、未知の仕事にチャレンジできる職員が市役所では大きく伸びていくのです。



勇気と挑戦精神（その2）

環境の変化に前向きに適応し、
既存の発想や答えにとらわれないアイデアを生み出せる人

前回に引き続き「勇気と挑戦精神」について説明します。

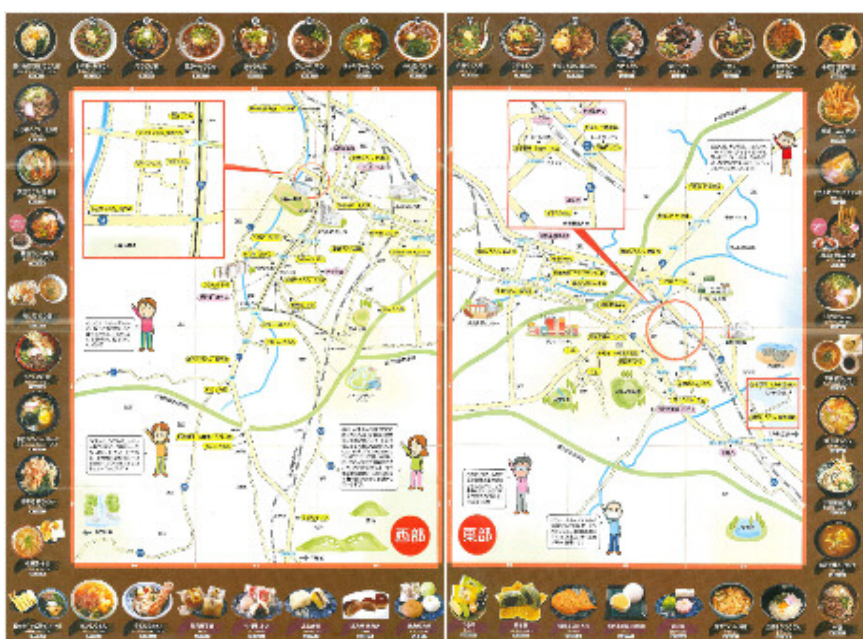
民間企業であれ地方自治体であれ、組織はその存続のため、自身を取り巻く外部環境の変化とその意味を理解し、必要となる改善・改革を進めていかなければなりません。平成20年に策定した北九州市の基本構想「元気発進！北九州」プランでは、市を取り巻く外部環境の変化として、①超高齢・少子化社会の到来、②地球環境問題の深刻化、③アジア大交流時代の進展、④高度情報化と知識創造社会の進行、⑤地域主権の実現に向けた動き、の5つを挙げています。このような時代の潮流を前向きに受け止め、北九州市の力強い発展につなげていくため、市役所では日々、職員が新たな施策やユニークな取組みを企画し、実行に移しています。



例えば、みなさん平成22年に始まった「環境修学旅行」を知っていますか？北九州市への観光客を増やし、経済の活性化を図るためどうしたらよいか。新たな集客施設に頼るのではなく、北九州市が持つ魅力資源を改めて探索し（あるものさがし）、同時に修学旅行が「名所巡り」から「体験学習」へシフトする流れを的確にとらえたアイデアが、本市の様々な環境関連資源をパッケージ化した「環境修学旅行」です。単なる施設見学で終わるのではなく、厳しい公害を克服した環境未来都市ならではの体験学習メニューも織り交ぜ、他の都市には真似できない修学旅行として全国に名を知られています。

また、ゼロからアイデアを生み出すだけでなく、われわれ職員には、自分の担当業務を振り返り、よりサービスの質を高めていく「日々改善」の姿勢が求められます。北九州市の女性消防団員がホームヘルパー2級の資格を持っていることを知っていますか？本市では従来から、一人暮らしの高齢者宅を女性消防団員が訪問し、防火・防災に関する指導を行っていました。しかし、その指導の過程で、福祉面で悩みを抱えた高齢者が圧倒的に多いことが判明したのです。この状況にこたえ、防火・防災を使命とする消防団員の守備範囲を広げ、簡単な家庭内の整理や、福祉相談を関係機関に連絡するなどホームヘルプ的サービスも行う「いきいき安心訪問」が始まったのです。

市役所職員には、与えられた仕事をこなすだけという受け身の姿勢ではなく、時には勇気を出して自分の仕事のテリトリーを越える積極性が必要となります。環境修学旅行は、発案した職員が一貫して中心となり、周囲や関係者の協力も得ながら実現に結びつけました。最近、肉うどんが脚光を浴びている小倉南区の「うどん&和すいーつまっぷ」は、小倉南区役所の職員有志が日常業務とは別に自主的なグループ活動を展開、飛び込み取材を重ねた結果がグルメマップという成果につながっていったのです。



やりがいのある仕事は待っていても巡り合えません。確かに採用されたばかりの職員には、まずは与えられた仕事を正確かつ迅速に処理することが求められます。しかし、現状に甘んじず一歩踏み出す意識や柔軟な発想をもった人間は、同じ経験を重ねる中でも、他の人間より一回りも二回りも大きくなっていくのです。

